

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 計画

学校名	佐賀市立昭栄中学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上・・・生徒の主体的な学びを促すための授業改善やICT機器（電子黒板、学習用タブレットなど）の効果的な活用について研修などを用いて考えながら更なる学力向上を目指したい。 ・特別支援教育の推進・・・教室環境の整備や個に応じた支援などの内容について、研修等を用いて全職員で確認・検討し、取り組みを進める。 ・環境教育の推進・・・教職員の環境に対する高い意識や適切な行動が、生徒の行動にも反映されるよう、指導の充実を図る。学校版環境ISO実践校であることを再認識し、生徒会を中心に取り組み全教職員が一丸となって支援していく。 ・地域行事への参加・・・コロナ禍での地域行事の中止があったり、部活動の練習や大会などと重なったりして、地域行事に参加しにくいという現状があるが、参加の調整を工夫する。
------------------	--

2 学校教育目標	夢に向かって たくましく 挑戦する生徒の育成 ～ 自律 協働 ～
----------	----------------------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①確かな学力の定着 ②生徒指導の充実 ③特別支援教育の充実 ④開かれた信頼される学校づくり
------------	--

4 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目			
評価項目	重点取組		具体的取組
	取組内容	成果指標 (数値目標)	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師を90%以上にする。	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。
	○根拠をもとに説明する力の育成を目指した学習指導の工夫	○県学習状況調査において全教科で学力向上シートに設定した目標値を上回る。 ○「学校の授業などで、自分の考えを他の人に書いたり、話したりして説明できる」と肯定的に回答する生徒の割合を65%以上にする。	・「対話的な活動」を取り入れた授業づくりを全教科で実施し、授業改善を図る。 ・全教科で、根拠をもとに説明する場面を設定した単元づくりを行う。 ・相互授業参観を実施し、多角的な視点から授業改善を図る。
	○GIGAスクール構想を実現するための体制づくりと実践	○職員へのアンケートを実施し、結果を基に年3回の職員研修を行う。 ○週1回の情報教育部会を実施する。	・学習支援ツールの活用に関する校内研修の実施 ・情報教育担当によるTeamsの使い方の研修 ・情報教育部会を行い、生徒端末や教師端末をトラブルなく使用できるようにする。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした生徒を80%以上にする。	・ふれあい道徳を公開し、道徳教育の充実を図る。 ・いじめ・いのちを考える日や人権集会、研修会を実施する。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●「生活アンケート」を月1回実施する。 ●6月と10月に教育相談を実施する。 ●学校アンケートで、いじめに関する項目で「差別やいじめが無いよう心がけている」と応えた生徒を90%以上にする。	・いじめに関する実態調査を毎月行う。 ・きめ細かな実態把握に努め、いじめの未然防止、早期発見、早期対応を図る。 ・情報交換を密に行い、共通理解を図り、協力体制をつくる。 ・教職員への「いじめ防止対策基本方針」の周知を図る。また、SC・学習支援員・SSWとの連携を深める。
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●◎生徒にアンケートを実施し、自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答えた生徒を80%以上にする。	・全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標を提示できる時間や場面を設ける。
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%以上	・部活動で、体力や技能の向上を図り、心身共に健康な生徒を育成する。 ・体力テストの結果を個人で分析する時間を設定し、具体的な改善・目標を立てさせ実践させる。
	○「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○保健だよりを毎月発行し、食に関する情報発信を5回以上行う。 ○望ましい食習慣について、生徒会と協力し、集会等で情報を発信する。 ○朝食の喫食率を80%以上にする。	・養護教諭と給食担当で協力して、食の自己管理能力の育成に関する情報発信を行う。 ・生徒保健委員会と協力して、全校生徒に発表を行う。 ・生徒会担当と養護教諭と連携して取組の徹底を行う。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・教職員一人ひとりが担当する業務について、効率化・費用対効果の視点から見直しを行う。 ・業務記録表を使って、業務改善をすすめ、月当たり80時間以上の超勤を0%にする。前年度比10%減、学校閉庁日の設定 ・部活動休養日の取得率を100%にする。
	○業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	○週1回の定時退勤の割合を80%以上にする。	・全職員が状況が把握できるように、見える化した定時退勤簿を設置し、週単位で、見直しをもって勤務計画を立てることができるようにする。中間評価までに、定時退勤簿達成率を75%以上にする。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
評価項目	重点取組		具体的取組
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	
○生徒指導	○生活指導、教育相談の充実	○不登校や相談室登校の生徒数を減少させる。 ○特別支援を含めた総合的な生徒指導体制づくりを行うため、3回以上関連する協議会を実施する。	・アンケートを活用し、定期的に教育相談を実施して生徒理解に努める。 ・生徒会活動の充実を図り、教育活動の中に生徒一人ひとりが自己指導力発揮する場を設定する。 ・生徒指導や特別支援教育の支援体制を整備する。
○特別支援教育	○特別支援教育の充実	○特別支援教育の視点を取り入れた教室環境に取り組み、アンケートで授業が受けやすい環境であるとした生徒を80%以上にする。	・教科教育充実のために、特別支援学級を全校の時間割に組み込む。 ・特別支援教育に関する全体研修会を開催し、教職員のスキルアップを図る。 ・連絡会や各研修会、特別支援だよりを通して、全職員の共通理解を図る。
○環境教育	○「佐賀市学校版環境ISO」認定取得校としての環境教育の推進	○ゴミのない学校の取組を推進する。 ○SDGsを達成するために、ゴミの減量、持ち帰りに積極的に取り組む生徒を80%以上にする。	・生徒集会で「佐賀市学校版環境ISO」認定取得校として環境教育を説明する。 ・SDGsを意識し、各学級でゴミの削減について考え実践する。
○小中連携	○中学校校区内の小学校との連携の推進	○児童・生徒・教職員の相互交流の場や交流活動の内容を充実させ、アンケートで、学校が必要に応じた連携を行っているという回答を80%以上にする。	・小中合同の教務主任会議を行う。 ・「小学校6年生への授業体験」「ふれあい学級見学会」などを行い、小中連携をすすめる。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育